

ビジネス航空とは

ビジネス航空とは、定期航空会社や軍が行う輸送以外で、ビジネス目的で航空機(飛行機及びヘリコプター)を使って行う貨客の輸送のことを言います。空の自家用車、ハイヤー、タクシーです。 ビジネス航空に使われる航空機がビジネス機で、その代表がビジネスジェット機です。

世界の現状は? 大企業だけのもの?

日本ではまだまだ活用数の少ないビジネス機ですが、アメリカなどでは利便性・ 快適性・安全性にすぐれたビジネスツールとして広く認知されています。



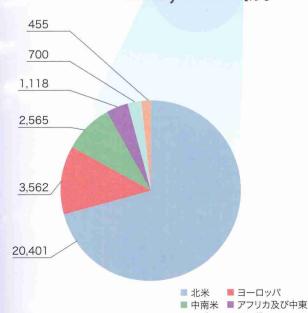
アメリカでは
そのうち
85%が
中小企業
利用者の
約8割が
非経営層





世界では何機飛んでいるのか

ビジネス機の世界総数 28,801機



■国別登録数

国	保有機数	
米国	18,300	
ブラジル	1,235	
カナダ	1,024	
メキシコ	920	
ドイツ	583	
ベネズエラ	461	
オーストラリア	415	
南アフリカ	399	
イギリス	360	
フランス	319	
インド	221	
中国	131	
日本	61	
	ブラジル カナダ メキシコ ドイツ ベネズエラ オーストラリア 南アフリカ イギリス フランス インド 中国	

固定翼タービン駆動式ビジネス機(除軍所有機、含公用機) 出典: Flightglobal社 JP Biz-Jet & Turboprops 2012

ビジネス航空を利用するメリットは



- ●所要日数/時間の短縮
- 効率性 自分に合わせたスケジュール設定 ●複数都市訪問
 - ●利用可能空港の増加
- ●空港での待機時間の短縮(スピーディーな入出国手続き)
- ●機内の時間の有効活用

例えば

定期便の利用で達成できない仕事が可能になります。



3日の旅程短縮が可能です。





- ●旅客機より低い事故率
- 安全性 ●ハイジャック・テロリスクの排除
 - ●高い機密性
 - ■ビジネス機に関わる安全規制は、一般エアライン機 ほどきめ細かくありませんが、米国では1万機を越 えるビジネスジェットが運航されている中で、航空の 秩序を守る社会的責任により、国際的なビジネス機 の業界運航基準(IS-BAO)等による自主的安全管理 が効果的に行われています。

■10万飛行回数当たりの死亡事故件数

コーポレートジェット	0.01件		
全ビジネスジェット	0.18件		
商用定期便	0.03件		

IBAC(International Business Aviation Council)によるワールドワイドデータ分析 出典: IBAC Business Aviation Safety Brief Issue No.11 October 1, 2012

- ■多くの機数を自社の運航部門で運航している大企業のビジネスジェット(コーポレートジェット)の場合は幹部、基幹 社員の利用が多いため独自の安全基準を設定したり、安全管理を徹底しているので、一般エアライン機を上回る安全 実績を残しています。
- ■ビジネス機のチャーター運航にも当局の厳しい運航基準が適用され、高い安全性を維持しています。 ※日本国籍の自家用ビジネスジェットの重大事故は、今日まで皆無です。

利用・所有するには

ビジネス機の利用形態としては、大きく分けて以下の2つがあります。

- 自ら所有し利用
- 利用者が個別に事業会社(運航会社)から事業用機をチャーターして利用(オンデマンドチャーター)

所有する場合も単独所有と分割所有があり、又日本籍での所有だけでなく、外国籍(米国籍等)での所有、利用も可能です。 自己所有がよいか、チャーター利用がよいか、又日本籍所有がよいか外国籍所有がよいかは一長一短があり利用される 方のニーズによって決まります。

●自家用機として所有する場合

セスナ・サイテーション・ソブリン(中型機)の場合

a)機体購入費:約18億円 (標準仕様、2012年。仕様、為替等により変動)

- b)機体維持管理費:約2億円/年 (パイロット費用・保険費用・格納庫費用等)
- c)直接運航費:約30万円/時 (燃料費・ハンドリング料等)

※運航・整備形態により変動

②チャーター利用する場合

セスナ・サイテーション CJ2+(小型機)の場合

飛行1時間当たりのチャーター料金:約48万円/時間 機体回送費用(顧客が搭乗しない飛行区間):約40万円/時間

「時間」の価値が高くなってきている現在、充分に価値があるとの評価が高まりつつあります。

※これらの金額は一例の目安であり実際はさまざまな条件で変動します。

ビジネス機にはどのような飛行機があるのか

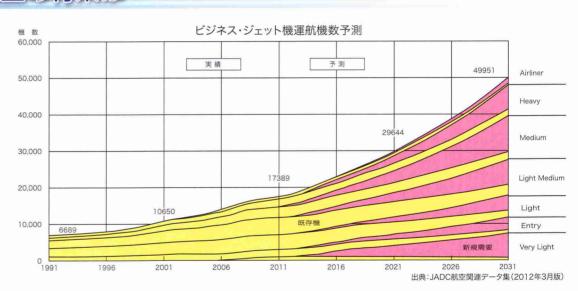
次の表に代表的なビジネスジェット機の例を示しますが、用途に応じて色々な種類の飛行機があります。 Heavy Classの機種は日本から米国や欧州への直行も可能です。

クラス	最大離陸重量	代表機種	イメージ	価格	航続距離	北米での使われ方
VLJ (Very Light Jet)*	5,000 - 10,000 lb	Honda Aircraft HondaJet	-	\$4.5M	1,180nm	地域運航
Entry	10,000 - 13,000 lb	Cessna Citation CJ2+	4	\$6.89M	1,613nm	地域運航
Light	13,000 - 20,000 lb	Bombardier Learjet 40XR	-	\$10.6M	1,723nm	ドメスティック全体
Light medium	20,000 - 33,000 lb	Cessna Citation Sovereign	Samuel Samuel	\$17.61M	2,847nm	北米全土
Medium	33,000 - 50,000 lb	Bombardier Challenger 605		\$29.08M	4,010nm	北米全土、大西洋横断
Heavy	50,000 - 100,000 lb	Gulfstream G650		\$64.5M	7,000nm	太平洋横断
Airliner	Over 100,000 lb	Airbus ACJ319		\$80M	6,000nm	太平洋横断

^{*}Honda Aircraft Companyは "Advanced Light Jet" という表現を使用している。出典:Flightgloba「2011 Pocket Guide to Business Aircraft」

ビジネス航空の将来は

大きな伸びが予想されています。



日本の現状は

日本でも自社機を保有し、ビジネスで活用している会社があります。 またチャーター利用も進んでいます。

日本の経済的規模と比較して未発達

[問題点及びその改善]

首都圏空港のビジネス航空用発着枠の不足、厳しすぎる航空規則、施設の未整備、理解不足等から他の先進国に比べ大きく後れをとっていましたが、近年国土交通省等の力添えもあり大幅に利用環境が改善されつつあります。

[日本でのビジネス航空の将来]

長年、日本は国土が狭く、鉄道網も発達していてビジネス航空等は不要との意見がありましたが、今や日本だけでなく中国、韓国を含む東アジア全体 (場合によれば東南アジアも含めて) を一つの経済圏として行動しなければならない時代になっています。その場合その経済圏、移動圏は米国やEU圏に匹敵します。

又日本国内にもビジネス機が利用できる空港が100以上あります。新幹線より自由 に行動でき、地方から地方へ等、東京経由でなく自由に行き先を選べます。まだまだ これからの有望市場です。

日本ビジネス航空協会の活動

「日本ビジネス航空協会」は我が国に於けるビジネス機の普及、啓蒙、発展に寄与することを目的として、日本ビジネス機協会(JBAA)として平成8年(1996年)5月14日に発足ました。そして平成13年4月より「日本ビジネス航空協会」に名称を変更し、平成15年5月、東京都の特定非営利活動法人NPO法人)の認定を取得しました。又平成24年7月に一般社団法人として再発足しました。

日本ビジネス航空協会は「日本のビジネス機の普及」と、海外から飛来する国際ビジネス機の「運航環境の改善」を行うという大きな役割を担っております。

又日本ビジネス航空協会(JBAA)は日本を代表して国際ビジネス航空評議会(IBAC)に世界第11番目の団体として加盟していますが、そのもとでビジネス航空の発展や航空のルール造りに寄与すると共に、IBACと共にIS-BAO(The International Standard for Business Aircraft Operations)を推進することでビジネス航空の安全性の向上を目指しています。

日本ビジネス航空協会は行政機関、空港会社、航空機メーカー、航空機運航会社、航空機整備会社、 運航支援サービス会社、商社、損保会社、コンサルティング会社及び個人等、ビジネス機に携わる法人・ 個人が会員となっています。



一般社団法人

日本ビジネス航空協会

〒100-8088 東京都千代田区大手町1丁目4番2号 丸紅ビル3F Tel.03-3282-2870 / 5220-7710 Fax.03-5785-5965 http://www.jbaa.org/